

発刊のことば

沖縄県教育委員会教育長 安室 肇

沖縄県史編集事業は、平成五年度から業務をすすめてきましたが、平成九年度には編集方針を見直し、今年度から新たに策定された「新沖縄県史編集基本計画」に基づいて事業を推進してきました。

「新沖縄県史編集」の事業目的は、「沖縄県史は沖縄県にかかわる歴史を対象とするすべての体系的な歴史書を編集し、先人たちの多様なあゆみ・成果を現在および未来の人々のために基礎資料として提供する。そのことにより沖縄県における歴史認識、文化意識の一層の活性化を促す」ことにあります。

そのため県史資料編は、「沖縄県の歴史に関する資料の収集と普及の充実をはかる」ことを事業方針として、編集事業の重要な柱のひとつと位置づけております。

この度刊行された「沖縄県史 資料編7 近世1 伊江親方日々記」は、琉球処分以前の、琉球の三司官も勤めた首里の士族である伊江朝睦の日記であり、前近代の史料となります。その内容は、十九世紀初期から半ば頃にかけての、首里王府の重要職であった三司官の職務日記をはじめ、三司官引退後の伊江朝睦から見た伊江家の家政日記、自分日記、また自分の病中日記、息子四代親方の先室の看病日記と多岐にわたっており、単に歴史学関係からだけでなく、民俗学や人類学、医学関係でも重要な基本文献となるものです。

本書が、沖縄の歴史・民俗、そして医学等の面において寄与し、確かな沖縄像を明らかにするための一助になれば幸いです。

最後に、本書の刊行を承諾していただきました県立図書館、ならびに史料を読むための手助けいただきました研究者をはじめとする関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

平成十一（一九九九）年二月